

平成 27 年 度

事 業 計 画 書

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

一般財団法人 日本サイクルスポーツセンター



## I. 事業方針

平成26年度の有料入場者は、その前年度に実施した施設のリニューアルとPR活動の強化によって、前年度比15%を上回る人数を達成しており、平成21年度以来5年ぶりに15万人の大台を超える勢いとなっている。

一方、これまで不採算施設の廃止(サイクル温泉ゆーサロンの営業終了：平成26年5月末)及び執務人員の縮小等の合理化にも積極的に取り組んでおり、「増員・増収及び合理」の両面から財政の健全化に努めてきた。

本年度事業を計画する前提として先ず優先されることは、前年度に引き続き更なる入場者の獲得と合理化の推進に尽力し、収支バランスが損なわれている状況を改善して本センターの健全経営を立証することと考える。

次に、事業の目標としては、トップアスリートから一般のサイクリストまで、また健康志向の方から遊び目的の小人まで、幅広い層に注目していただける「自転車を中心とした生涯スポーツ施設づくり」を継続することとし、より質の高いサービスの提供が可能となるよう諸事業の内容を見直し、また情報提供の充実を図る等の方策を講じることで、目標の実現に向けることとし、年間有料入場者18万人の達成を目指す。

また、本年度は1月にアジア自転車競技選手権大会・アジアパラサイクリング自転車競技選手権大会(トラックレース)という一大イベントが本センターの伊豆ベロドロームを会場に開催される事が決定し、世界レベルの自転車競技施設を有する本センターへの注目度は一層高まることから、関係機関等の期待に応じて遺漏のないよう、かつ適切な対応を行うこととする。

本年度の主要な施策は、次のとおりである。

- 健全経営の確立
- 誘客に向けた各種イベント、サービス機能及びPR活動の強化
- 国際的な自転車競技大会の受入・協力
- 地域行政等との連携

なお、事業の実施にあたっては、一部、公益財団法人JKAに対し、公益事業振興資金の補助(自転車競技の普及促進事業、青少年の健やかな成長を育む活動)を申請する。

## II. 事業内容

### 1. サイクルスポート施設の運営等に関する事業

#### (1) 各種施設の提供

5キロサーキット、MTBコース、BMXコース、伊豆ベロドローム等の自転車競技施設及び室内フットサル場、体育館の屋内スポーツ施設並びに野外活動施設のDAYキャンプ場、自転車競技大会の参加者及び合宿者の宿泊場所である宿泊施設サイテル等の諸施設を広く一般に提供し、サイクルスポーツを中心とする生涯スポーツの普及に努める。

#### (2) その他の事業

このほか、自転車競技施設及びトレーニング施設の貸与、各種自転車及び関連機材の貸出し、各種自転車の展示等の事業を行う。

### 2. 自転車競技及びサイクルスポーツ等を普及促進する事業

#### (1) アジアサイクリングセンターの運営

##### ア. 国内トレーニングキャンプ

UCI国際自転車競技連合支援事業として、アジア各国から将来を期待されるトラック競技者及び指導者（定員18名/回）をCCC修善寺に集め、年2回、6月から7月と11月に各々2週間程度の訓練研修を行い、自転車競技の振興に努める。なお、本年度においては、アジア各国の選手以外に日本国内の比較的経験の浅い若手選手の受け入れも積極的に行うこととする。

##### イ. 移動サブセンター

タイ王国にCCC修善寺のコーチングスタッフを派遣して、当該地域の競技者及び指導者（定員24名/回）を対象に、年1回、9月から10月に10日間程度、ケイリン競技を含むトラック競技の指導を行う。

#### (2) 自転車競技大会及び合宿の開催と受入れ

5キロサーキット、伊豆ベロドローム、MTBコース、BMXコースを始めとする本センター所有施設を活用し、各種自転車競技大会を企画・開催するとともに、他団体が主催する様々な自転車競技大会を招致し、その開催に協力する。

##### [主催大会]

- ・Challenge The Izu Velodrome シリーズ（4～6月）
- ・5時間耐久チームサイクルロードレース大会（7月）
- ・夏季及び秋季トラック自転車競技大会（7月、10月）
- ・BMXチャッキーカップ（10月）
- ・MTB24時間耐久レース大会（11月）
- ・クリテリウムシリーズ（4～12月、2月）

[他団体が開催を予定している主な大会]

- ・チャレンジサイクルロードレース大会（4月）
- ・全日本自転車競技選手権大会トラック・レース（4月）
- ・ツアー・オブ・ジャパン伊豆ステージ（5月）
- ・全日本学生選手権トラック自転車競技大会（7月）
- ・JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会（8月）
- ・ジャパン・パラサイクリングカップ2015トラック・ロード（10月、11月）
- ・JBCF全日本トラックチャンピオンシップ（11月）
- ・全日本選手権自転車競技大会 オムニアム／マスターズ（11月）
- ・伊豆BMX国際（11月）
- ・アジア自転車競技選手権大会・アジアパラサイクリング自転車競技選手権大会トラックレース（1月）

このほか、ナショナルチームを始め、大学や高等学校の自転車競技部等、各種自転車競技団体の合宿を積極的に誘致し、受入れを行う。

### (3) 伊豆サイクルスポーツクラブの運営

本センター独自に伊豆サイクルスポーツクラブを運営し、トラック競技については毎月4回、MTB競技及びBMX競技については毎月2回の実技指導を行い、自転車競技の底辺拡大を図る。

なお、同クラブの活動理念は次のとおりである。

- ① 地元伊豆市の「スポーツ少年団」に登録し、地域と密着した活動を展開する。
- ② 自転車競技の初心者からトップアスリートを目指す者まで、老若男女幅広い層の競技愛好者を受け入れることとし、常に会員の増大に努める。
- ③ 定期的に記録会や競技会を実施するほか、本センターが主催する各種大会への参加を促し、会員の練習意欲の向上を図る。

### (4) 自転車競技体験キャンプの開催

自転車競技やサイクルスポーツの楽しさ等、自転車の魅力を充分に感じて頂き、自転車を生涯スポーツのアイテムとして利用促進するとともに、自転車競技愛好者の底辺拡大を図るため、小学生以上を対象にした各種トレーニングキャンプを開催する。

#### ①ジュニア自転車競技キャンプ（トラック・ロード・MTB・BMX）

対 象：小学生

実施時期：8月（2泊3日）

#### ②女子ジュニア・ユースアスリート育成トラックキャンプ

対 象：16歳～19歳の競技経験者

実施時期：第1回 6～7月（2泊3日）、第2回 11月（2泊3日）

#### ③トラック・スプリングキャンプ

対 象：小学生

実施時期：2～3月（1泊2日）

(5) 自転車スクールの開催

自転車愛好者の底辺拡大を図るため、自転車に乗れない女性を対象にした1泊2日の乗り方教室を5回、小学生を対象にした日帰りの乗り方教室を5回開催するほか、女性を対象としたステップアップ教室を1回開催する。このほか、自転車競技を題材にした漫画・アニメの影響を受けて、近年若い女性のロードバイク利用者が増加していることから、ロードバイク初心者向けのスクールの開催も行う。

(6) 各種イベントの開催

ア. 自転車普及イベント

各シーズンに自転車の魅力や楽しさを満喫できる近隣サイクリングツアーや「ストライダー」の月例大会など、自転車の国ならではの自転車普及イベントを開催して自転車愛好者の底辺拡大に努める。

- ・ 3時間耐久一輪車レース大会（6月）
- ・ 紅葉サイクリング（11月）
- ・ 新春静岡県一輪車競技大会（1月）
- ・ 静岡オープン一輪車駅伝（2月）
- ・ 第5回 STRIDER Mini Mini チャッキーカップ（2月）
- ・ FM IS CUP in CSC STRIDER Park シリーズ（4～12月、2月）

イ. スポーツイベント

自然環境に恵まれた本センターの自転車競技訓練施設等を会場にして、ウォーキング大会やマラソン大会を開催することにより、スポーツへの参加機会を増大させるとともに、スポーツ愛好者に本センターの存在を認知させる。

また、室内フットサル場において、伊豆地区のフットサル愛好者を対象にしたリーグ戦や同じく伊豆地区の小中学生等を対象にした様々な大会を計画し、フットサルを通じた地域スポーツの振興を図る。

ウ. 健康増進イベント

ウエイトトレーニング場の機器を活用して、本センターのスタッフによる様々な健康体力づくり講座を定期的で開催し、健康増進に寄与するとともに自転車の健康面での効用も併せて啓発する。

(7) ナショナルトレーニングセンター（NTC）競技別強化拠点施設の活用

NTC自転車競技強化拠点施設として、文部科学省との委託契約に基づき、ナショナルチームの強化やジュニア競技者の計画的な育成を行うための施設の優先・専有利用及びトレーニング施設の競技条件の向上、科学的なトレーニングを行うための医科学サポート並びに情報ネットワークの構築等、競技力向上のための活用事業を行う。

なお、パラリンピック競技におけるNTC競技別強化拠点施設指定の公募（平成27年1月22日公示）に対し申請を行ったところ、平成27年2月27日付で文部科学省から指定を受けたことから、これまでのオリンピック競技と同様にパラリンピック競技についても文部科学省との委託契約に基づき基盤構築事業を行う。

#### (8) 自転車プログラムの充実

老若男女問わず、本センターに来場する自転車競技者や一般愛好者などに対し、自転車の乗り方やメカニック指導等のソフトを提供し、それぞれの生活スタイルに合ったサイクルライフの実現に向けた総合的なサポートを行い、競技者及び愛好者の増員に努める。

#### (9) 自転車競技の地域普及啓発活動

自転車競技のオリンピック4種目を全て体験できる専用競技場と自転車競技の公認コーチ・インストラクター及びプロライダーを備える本センターの特性を活かした各種プログラムを地元住民へ提供し、自転車競技と触れ合う機会を与え、伊豆地域における自転車競技の普及啓発に努める。

なお、実施にあたっては、地元教育委員会等との連携を行い、地域と密着した事業を展開する。

### 3. サイクルスポーツに必要な自転車等に関する研究

自転車施設にレンタサイクルとして配備した各種市販自転車の利用後の評価に関してアンケート調査を行うとともに、日常の自転車利用の機会や目的等についてもデータを収集する。

### 4. サイクルスポーツ施設に付帯する施設等の運営に関する事業

#### (1) 各種施設の提供

“安全性の確保”と“満足度の向上”を念頭に置き、ファミリーサーキット、おもしろ自転車、サイクルモノレール等の自転車関連施設及びサイクルコースター、スカイローラーを始めとする遊戯的施設等を一般へ提供する。また、昨年リニューアルオープンした「ジャングルジムFUJISAN」に滑り台等の遊びの機能を付加するなど、より魅力的な施設の提供とサービスに努めることで、リピーターの獲得に向ける。

#### (2) その他の事業

シーズン毎の集客イベントを開催するほか、近年業績が好調な「5キロサーキットでの撮影・イベント貸切」、8月末に予定されている「オールナイト音楽イベント」など、収益を目的とした施設の貸与等事業を行う。

### (3) 一般向け集客イベントの開催とPR活動の強化

誘客の目玉となる繁忙シーズンの子供向けイベント、新聞及び雑誌の購読者向け会員機関（読売ファミリーサークル、J A F）及び本センターが舞台となったアニメ制作会社とのタイアップ、伊豆地域で農産物や海産物を取り扱う関係者による即売会等の開催を年間通じて計画し、このPRと新規オープンしたりリニューアル施設の紹介を効果的に実施することにより、一般来場者の獲得に努める。

## 5. 飲食等付随するサービス事業

飲食及び物品販売事業については、顧客満足度の向上に心掛け、引き続き、地元の食材等を取り入れた新たな商品開発に取り組むとともに、関連イベントを開催することにより売上増進を図る。

## 6. 広報及び誘致活動

パソコンや携帯電話の普及が著しい現況に鑑み、様々な情報を簡単に不特定多数の者へ到達させることができるなど、最も高い費用対効果が期待できる“インターネット”をフルに活用し、ホームページについては、ホームページにアクセスする方々に、よりわかりやすく情報伝達が可能となるようトップページのデザインを見直し、また検索エンジンの増加・他のホームページとのリンク・情報メールの発信等を積極的に行い、各種自転車の国の情報をタイムリーに発信する。

併せて、自転車競技大会やイベントの開催時には、テレビ・新聞・チラシ等を媒体とした広告宣伝を実施するほか、各種報道機関や地元行政機関に対して、積極的な情報提供を行い、パブリシティ活動を推進する。

この他、前述の自転車競技体験プログラムとともに、各種自転車の体験乗車に関するプログラム、自転車の整備に関するプログラム、野外炊飯に関するプログラム等、様々な体験プログラムを販売促進活動のツールとして、首都圏に対しては、経験豊富な専属の担当者を配し、学校や旅行代理店・官公庁・大手企業等への販売促進活動を展開する。

一方、静岡県東中部地区の旅行代理店並びに伊豆半島一円の宿泊施設、中学校、幼稚園及び保育園も定期的に案内資料を提供し、誘客促進を図る。

## 7. 国際的な自転車競技大会の受入・協力

平成28年1月にアジア自転車競技選手権大会・アジアパラサイクリング自転車競技選手権大会（トラックレース）が伊豆ベロドロームを会場に開催される。この大会にはアジア諸国から多くの選手、スタッフの参加が見込まれていることから、会場の準備はもとより地域行政とも連携を図り、遺漏なきよう受け入れ態勢に万全を期す。



## 8. その他

### (1) 地域行政等との連携

#### ア. 伊豆市事業への協力

“伊豆をサイクルスポーツ・サイクルレジャーのメッカに！”を合言葉に、伊豆市と自転車関係団体とが「サイクルメッカ伊豆推進協議会」を組織し、サイクルフェスティバル、伊豆半島1周サイクリング等のイベントを開催する。

また、急速に成長しているアジア圏の観光需要を取り込むため、自転車をアイテムに新たな観光事業の展開を図り、地元観光産業をさらに発展させていくため地元行政との連携を強化する。

#### イ. 静岡県事業への協力

地域資源の活用とスポーツをキーワードにした新たな事業の創出による地域経済の発展を目的に、地元企業と行政とが「静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会」を組織し、スポーツと宿泊・観光を組み合わせた新しいサービスや商品の開発等を推進する地域産業活性化事業への協力を行う。

### (2) 各種資格取得の奨励・支援

自転車技士（日本車両検査協会）、自転車競技コーチ（日本体育協会・日本自転車競技連盟）、スポーツリーダー（日本体育協会）、スポーツ少年団認定員（日本体育協会・日本スポーツ少年団）等、本センターの事業運営に必要な資格に関しては、現行の担当業務を問わず、業務としてその取得を積極的に奨励する。

### (3) 職員研修の実施

これまでの知識やスキル習得を内容とした全体研修に変わり、職員のモチベーションや意識改革、また職場におけるマネジメントを目的とした研修を実施し、職員としての資質向上を図るとともに、サイクルスポーツセンターの組織の活力につなげていく。

上記以外の業務についても、必要に応じて適宜行う。